



# 朝霞第四小だより

《学校教育目標》

かしこい子

やさしい子

たくましい子

朝霞市立朝霞第四小学校

〒351-0015

朝霞市幸町1-6-9

TEL (461) 0363

E-Mail 4shou@asaka-c.ed.jp

発行責任者 校長 内田 隆

## 「あいさつ」について考える

校長 内田 隆

校内には教材用に管理している野菜が多く植えられています。学校ファームだけでなく校舎周りでも管理しています。植物は正直なもので、気温の上昇に伴いぐんぐんと元気に草丈を伸ばし、葉も青々と大きく広がっています。すでに果実が大きく育ち収穫できたものもあります。観察する児童の笑顔と歓声に学校再開の喜びを改めて感じています。

校内分散による取組を初めて3週間が過ぎました。市内の学校では通常登校、通常授業に戻っているところですが、四小では1学期いっぱい校内分散による通常授業を続けます。まだしばらくの間は家庭と協力して感染症対策（検温、マスク着用、タオル持参やソーシャルディスタンスの確保、衛生指導、消毒作業など）を継続しますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

私は今年度も毎朝校門に立ち、登校してくる児童の様子を確認しながらあいさつをしています。はじめの1週間、子供たちの元気なあいさつが聞こえてきませんでした。学校が再開して嬉しそうな表情の子供もいるのですが、子供たちの元気さを感じることはできませんでした。3か月に及ぶ休校のために子供たちの心への影響は計り知れないほど大きなものだったのかと考えさせられました。また昨年度までは登校して来る児童と明るくタッチをしながらのあいさつでしたが、今年度はマスクをして少し距離を取ったところからのあいさつです。きっと子供たちにしてみれば「この人だれ？」と思っていたのかもかもしれません。

6月9日の全校朝会は放送室からテレビを使って行いました。校長講話の題材は「あいさつ」です。生徒指導部から示されている四小生活スローガンの1番目にも「あいさつ」があります。また重点項目としても「あいさつ」を掲げています。そのため、「あいさつをすることの意味」についての話をしました。いつもとは違う放送によるお話です。その場では子供たちがお話の内容をどの程度受けとめてくれたのかは分かりません。



翌日の校門でのあいさつは、ほとんどの児童がこちらの目を見ながら大きな声であいさつをしてくれるではありませんか。四小の子供たちはなんて素直なんでしょう。なんてしっかりと話を聞き、行動を改めることができるのでしょうか。素晴らしい子供たちです。とても感心しました。嬉しかったです。

### 校長講話の内容

- ・「あいさつ」をすることにはどんな意味があるのか？
- ・「あいさつ」しないと嫌われる
- ・「敵ではない」ことを伝える「あいさつ」
- ・「いじめ」と「あいさつ」
- ・あいさつ上手は人に好かれる

校長として何度も講話を行う機会をもらい、話をしてきましたが、これほど子供たちの行動が好ましく変容したという経験ができたのははじめてでした。このような経験ができた背景には、これまで様々な場面を活用してあいさつ指導を積み重ねた成果でもあるでしょう。いうまでもなく家庭生活の中で好ましい声掛けをしていただき、楽しい生活を築かれた家庭の教育力のたまものでもあります。

朝霞第四小学校の児童がしっかりとあいさつができるよう引き続き声掛けをしてまいります。“やればできる四小の子”をさらに伸ばし育てられるように家庭、地域と連携しながら朝霞第四小学校の教育を進めてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。